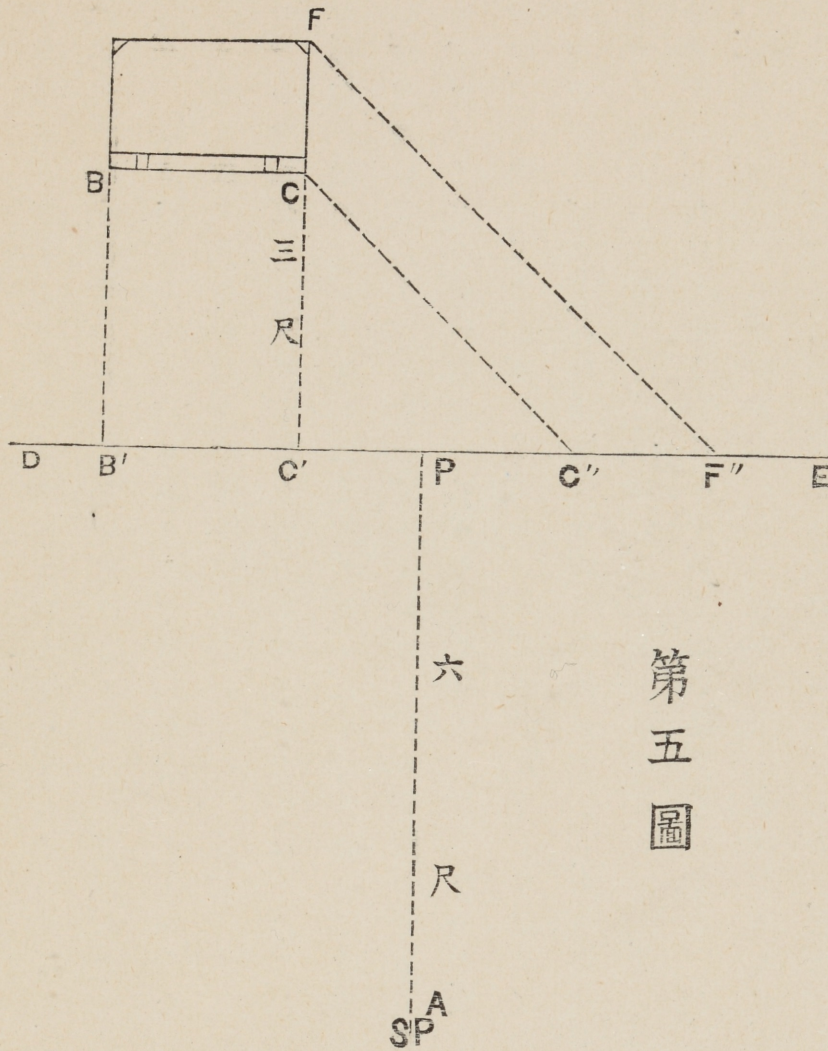


寫生用透視畫法 二

眞野紀太郎

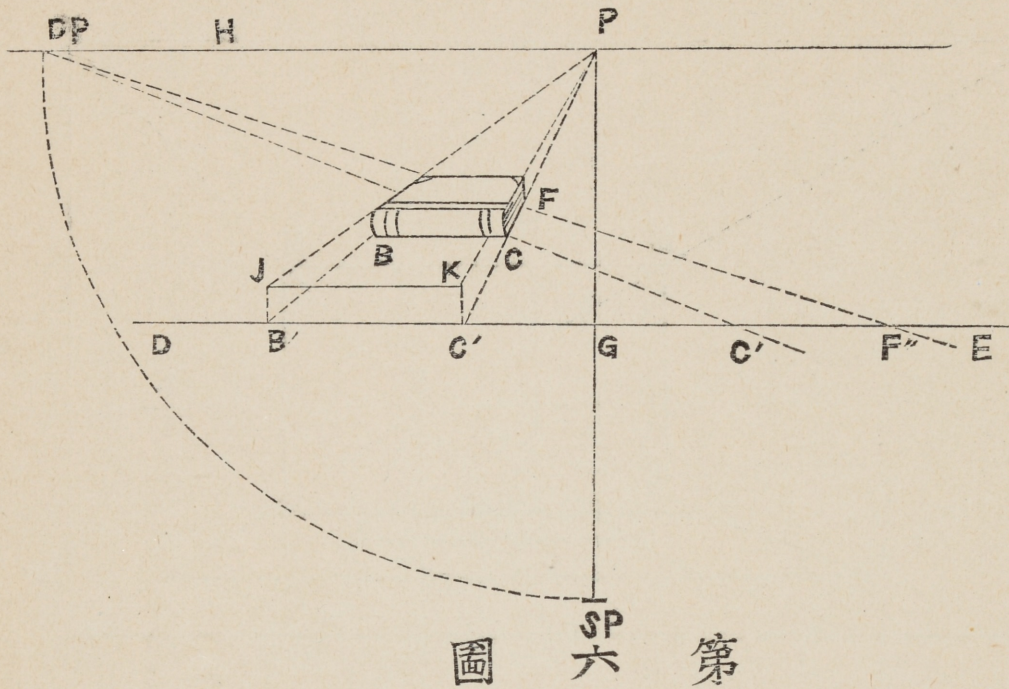
今畫者は、坐して一間半前に在る洋書を寫生すると假定せよ、之を平面圖にて示せば、第五圖の如き圖形となる、Aは畫者にして、B Cは洋書、D Eは畫面にして、A畫者よりD E畫面迄の距離六尺、D EよりB C洋書迄三尺、且洋書の大きさはC B一尺、C F七寸、



第五圖

厚さ五寸とす、之を畫法に依つて畫かんとすれば、第六圖の如く、D E線を引き、此線は後に畫面の底邊と成るべきもの、次にH L水平線を引く、之の場合、畫者は坐して居る故、高三尺即中視線上、GよりP迄、Pを通してH Lを引き、第五圖のP A(六尺)を、PよりS Pに量り、次に洋書の位置は、畫者の左若干なるC' B'をGより左にC' B'と記す、又本の厚さも、O' K, B' Jと記す、斯くすれば、要件なる畫者の高さ、畫面との距離、及洋書の位置等、記し了れるものなり、爰に注意すべきは、如何にして、線の消失點を見出し得るやの問題である、之に付き、次の要件を話す必要がある、總て畫面内の線の消失點は、S P

點(六圖)より、其方向と全しく引く線か、H L 線と交る點に消失するものである、即ち五圖の洋書の $C' C F$ 及 $B' B$ の如く、畫面内直角の方向にある線の消失點を求むるには、之と全方向に、六圖 $S P$ より引く線と、 $H L$



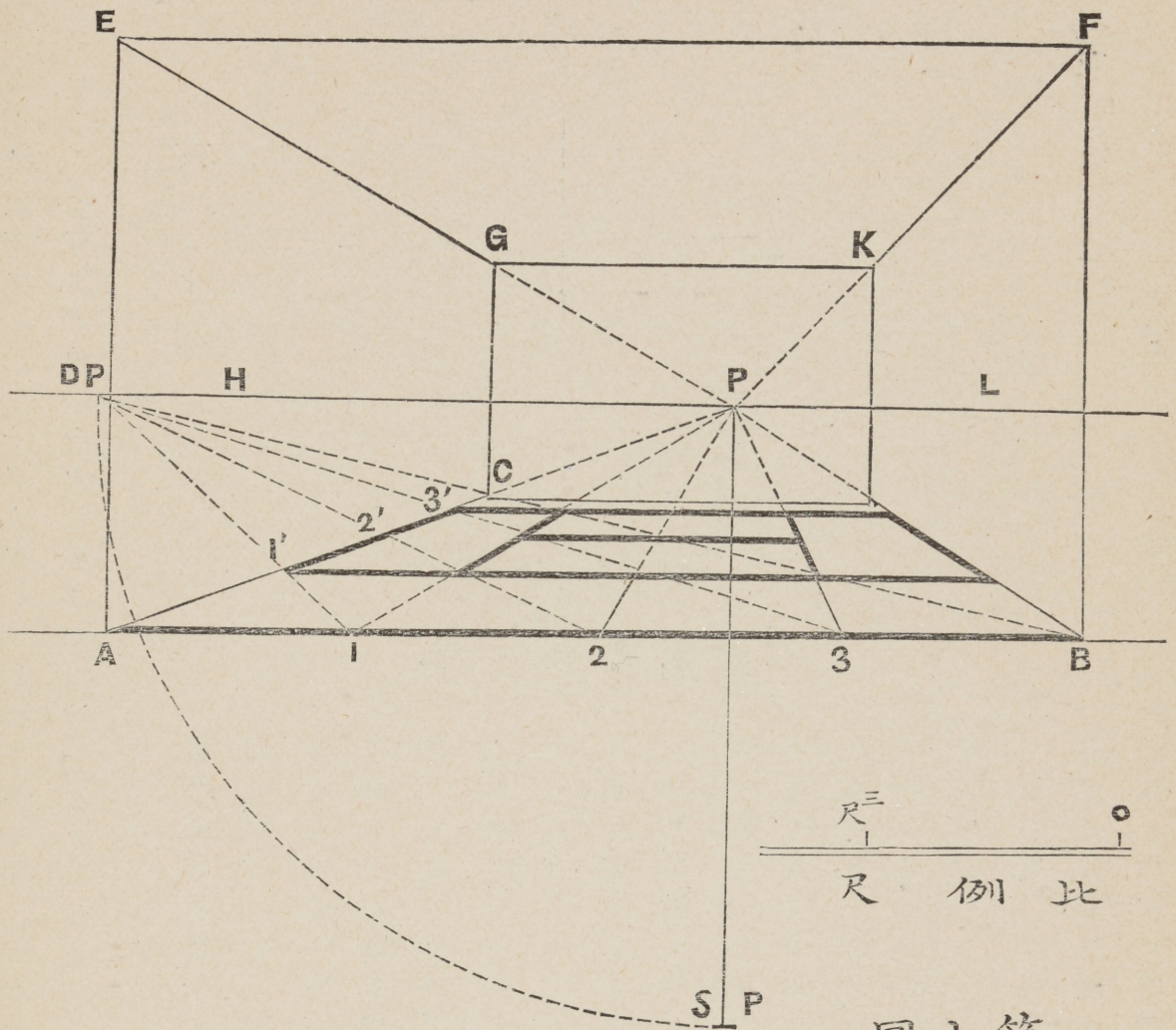
第 六 圖

との交點即ち P に消失するものである、又五圖の $C' C F$ 、 F'' の様に、畫面と四十五度の角をなす線(之の線は物の奥行を量る爲め、便宜上引く線)の消失點も、前法と同様 $S P$ より四十五度の角に引く線と、 $H L$ との交點 $D P$ に消失するものである、斯様に線の消失點を作り置き、此透視圖を書くのである、先づ六圖 $B' C'$ と、 P とを結び、洋書の奥行三尺の點を求むるには、 $D E$ 線上、右に C' (三尺)を量り、 C' と $D P$ とを結び、 $C' P$ 線と C に交る、此 $C' C$ は實尺三尺が畫面に現はる奥行である、次に C より水平に線を引き、 B を得、又本の奥行 $C F$ を定むるには、 C の右へ F'' を量り、此點と $D P$ との交點 F を得べし、次に厚さは、 J 及 K と P を結びたる線と、 C 及 B よりの垂線に因つて、洋書を書き終るのである、以上は透視畫法の主要なる約束を話したので、此外畫面内に於て、角をなす物體、及傾斜する物體、並に陰影畫法等あれど、其は進むに従ひ、話すことにして、次よりは題を設け、説明します。

第一題 八疊敷坐敷を寫すこと(第七圖)

畫者の高三尺(坐して寫生する場合)

畫者と畫面の距離一間半(坐敷の入口より、又云ひ替れば、畫に



圖七第

なる點より、畫者迄の距離)
 畫者の位置は、坐敷の中央より、少しく右
 に片寄りて坐すこと。
 斯様の場合は、透視圖法にて書くには、始
 めに A B 線を引き、比例尺の三尺を以て、間
 口二間 A B を量り、三尺つゝに 1 2 3 と
 記し、畫者の位置は中央より少し右に寄
 せて、垂線を引、畫者の高三尺 P を記し、P
 を通し、H L 水平線を引き、P より S P 點
 距離なる一間半を量り、奥行を量るべき
 D P (S P より四十五度の線を引き、H L
 と交る點)を定む、斯く寸法を記したる後、
 奥行二間を求めんとせば、B より D P に
 引く線と、A P 線との交點 C にして、又三
 尺つゝの點を求めんには、1 2 3 を、D P
 に引く線と、A P との交點 1' 2' 3' に因つ
 て知る事が出来ます、次に 1 2 3 より、P
 に引く線と、1' 2' 3' より水平に引く線に
 因て、圖に示す如く、疊の遠近圖を畫かれ
 ます、若し坐敷の大きさを畫くとせば、B F
 (B より天井迄の高) A E を立て、E F より
 P に引く線と、C よりの垂線 G、又 G より
 の水平線と F P との交點 K に因つて、坐
 敷の奥行を、畫くことが出来ます。